

## 本書の目的

本書は、AFP・2級FP技能士試験に最も容易に、かつ、確実に合格するために構成されています。

このテキストをマスターすれば、最も合理的かつ最短に合格圏に入ることができます。

## 本書の特色・使い方

### ① 文章は簡潔に、かつ、わかりやすくしました。

少ない時間で全範囲を学習するには、楽に読める必要があります。そのため、本書は、なるべく文章を簡潔に、かつ、わかりやすくしました。

### ② 図表を多く盛り込みました。

文字ばかりのテキストではなかなか理解が進みません。テキストの内容に合わせた形で、図表があると理解が進むものです。そこで、本書は、図表を多く盛り込みました。

### ③ 試験に出題されるか、否かの重要度を各事項のはじめに明示しました。

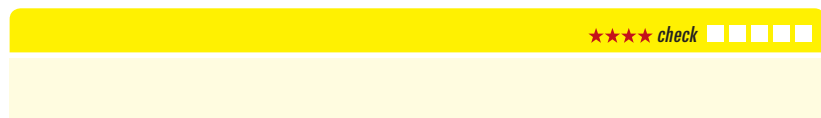
試験にあまり出ないところを一生懸命やっても無意味です。そこで、どこに力を入れて学習すべきかを各事項のはじめに、



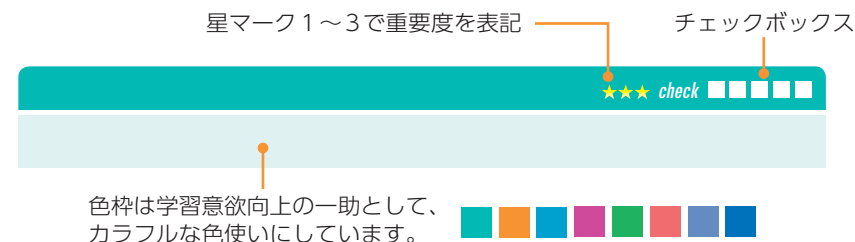
の3段階で示しました。

### ④ テキスト内の内容にも重要度を示し、確認のためのチェックボックスを設けました。

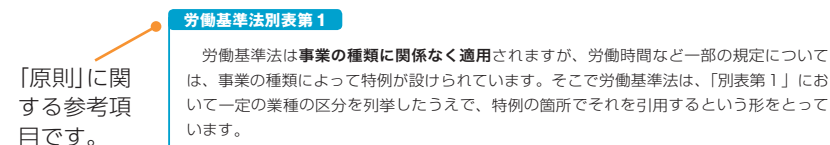
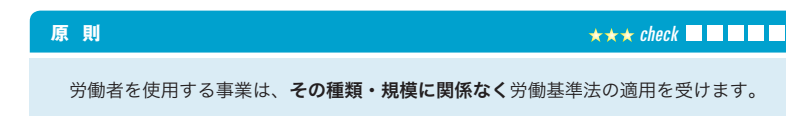
■黄色枠で4つ星マークが記してある箇所は、最重要事項です。テキストの本文中や事項の最後にポイントとしてまとめてある場合があります。



■テキストの本文中の必須学習項目は、黄色以外の色枠で囲み、1～3つの星マークで重要度を示しています。



■必須学習項目に関する参考項目については、同色で下記のように表示しています。



■テキスト右ページ上部には、学習日の記録欄を設けました。学習進捗状況などの確認に役立ててください。



■テキストの各ページの下に「メモ欄」を設けています。理解しづらい箇所に印をつけたり、メモをとったりする際は、メモ欄にすぐ書き込むのではなく、まずは付箋に書いてメモ欄に貼りましょう。この方法で、テキストを汚さずに、気づいたことを一時的に記録します。次に、学習を進めるうちに不要となった付箋をはがしましょう。付箋をはがすことで、学習が進んだことを実感できます。学習が進んでもなお必要な情報を、メモ欄に書き込み、自分だけのオリジナルテキストに仕上げていきましょう。

本書の利用により、一人でも多くの方がAFP・2級FP技能士試験に合格されることを心より切望します。

## ライフイベント表の作成

C  
ゾーン

**顧** 客およびその家族の将来の予定・希望する計画（＝ライフイベント）を、時系列にまとめ、一覧表形式にしたものです。

### 作成理由

★ check ■■■■■

- 顧客側**
- ① 漠然としか捉えていなかった本人・家族のライフイベントを改めて確認することができます。
  - ② 将来の夢や目標を新たに見つけるきっかけになります。
  - ③ イベントに必要な費用を**数値化**し、何がどれくらいかかるのか把握することができます。
- FP側**
- ④ 顧客のライフプランや人生観を知るよいきっかけとなります。
  - ⑤ 顧客のライフプランに沿ったアドバイスや情報提供を的確に行うことができます。

### ライフイベントに関するデータ

項目	データ	発刊元
貯蓄	<ul style="list-style-type: none"> <li>家計調査</li> <li>家計の金融資産に関する世論調査</li> </ul>	総務省統計局 金融広報中央委員会
教育資金	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの学習費調査</li> <li>国立大学等の授業料その他の費用に関する省令</li> <li>私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額の調査結果</li> </ul>	文部科学省
結婚資金	<ul style="list-style-type: none"> <li>結婚情報誌『ゼクシィ』結婚トレンド調査</li> </ul>	リクルート
住宅資金	<ul style="list-style-type: none"> <li>地価公示</li> <li>都道府県地価調査</li> </ul>	国土交通省 各都道府県
老後資金	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生労働白書</li> <li>生活保障に関する調査</li> <li>平均余命（簡易生命表）</li> </ul>	厚生労働省 生命保険文化センター 厚生労働省
介護資金	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者介護に関する世論調査</li> </ul>	内閣府
老人ホーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉施設等調査の概況</li> </ul>	厚生労働省
国民意識 社会情勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>国民生活白書</li> <li>人口動態調査</li> </ul>	内閣府国民生活局 厚生労働省

## キャッシュフローの基礎知識

A  
ゾーン

### 定義

★★★ check ■■■■■

- キャッシュフロー……1年間の資金収支と、その結果増減する貯蓄残高をいいます。
- キャッシュフロー表……現在の収支状況と今後のライフプランを基に、将来の収支状況を予想し、その結果増減する**貯蓄残高の推移を時系列にした表**です。

### 必要項目

★ check ■■■■■

- 年次
- 家族構成と年齢
- ライフイベント
- 変動率
- 上昇率
- 収入
- 支出
- 年間収支
- 貯蓄残高

### キャッシュフロー表分析の基本手法

★★★★ check ■■■■■

#### 基礎的事項

表に計上する数値は、**現在価値**で表した数値を基に変動率や上昇率を反映させて**将来の数値**を予測します。運用により増やせる金額の計算や、必要資金準備のための貯蓄額を毎年どれくらいにすべきか等の計算が必要になります。

#### 変動率の採用

- 物価変動率…インフレだけでなく、デフレの場合も考慮します。
- 給与収入等…上昇率や下降率だけでなく、ゼロ収入のケースも考える必要があります。
- 運用率…安全運用資金と積極運用資金とに分けて考え、それぞれの運用率を採用します。

notes

notes

## 将来価値

★★★★ check

貨幣価値は、見た目の数字（例えば“100万円”）は今も将来も変わらなくとも、内在的価値は時間の経過とともに経済情勢などによって変化していきます。今、手元にある100万円は、10年後、20年後、30年後も今の100万円が持つ内在的価値と同じとは限らないのです。**現在の収入または支出の金額を将来の価値に換算したものを「将来価値」と**いいます。



$$\text{将来価値} = \text{現在の金額} \times (1 + \text{変動率})^{\text{経過年数}}$$

※変動率（金利等）を乗じて、年数分の複利計算をします。

例) 変動率が2%の場合、現在の100万円は10年後にいくらになるか。  
 $100\text{万円} \times (1 + 0.02)^{10} = 121\text{万}8,994\text{円}$

## 現在価値

将来における収入や支出の金額を、現在の貨幣価値に換算したもののこと

$$\text{現在価値} = \text{将来価値} \div (1 + \text{割引率})^{\text{経過年数}}$$

※将来の価格を年数分の複利率で割ります。

例) 変動率が2%の場合、10年後の100万円は現在の価値ではいくらにあたるか。  
 $100\text{万円} \div (1 + 0.02)^{10} \doteq 820,348\text{円}$   
 これを「割り戻す」といいます。



## キャッシュフロー表の作成

A  
ゾーン

## 年次

★★ check

通常、1月1日から12月31日を「1年」とします。ただし、教育費などの年度を中心としたプランの場合は、4月1日から3月31日までを「1年」としても構いません。

## 家族構成・年齢

★★ check

- 氏名は原則としてフルネームで記入します。
- 依頼主が本人となり、その家族は本人から見た続柄を記入します。
- 12月末現在の年齢（税務年齢）で記入します。
- 子どもがいるケースでは学年欄も設けるとよいでしょう。

## 金額の単位

★★ check

千円単位を四捨五入し、「万円単位」で記入します。

## 収入と支出の記入

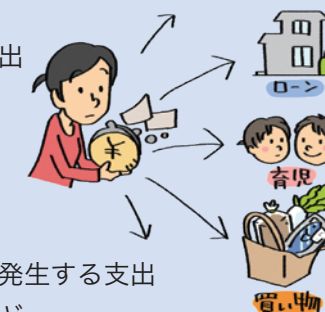
★★★★ check

## 収入

**可処分所得**で収入者ごとに記入します。このとき、定期的収入（給与収入、公的年金収入など）と、一時的な収入（満期保険金・退職金など）を分類したほうがよいでしょう。

## 支出

- ① 基本生活費……食費、水道光熱費等の基本的な家計支出
- ② 住居費……家賃、住宅ローン、固定資産税など
- ③ 教育費……学校教育費、学校外教育費（塾やお稽古ごとなど）の総額
- ④ 保険料……民間保険会社の保険料
- ⑤ その他の支出……毎月が発生しませんが、毎年決まって発生する支出  
例) 帰省費、レジャー費、贈答費用など
- ⑥ 一時的な支出……不定期や単発的に発生する支出であり、ライフイベント表に計上した金額



※キャッシュフロー表の作成において、住宅ローンの返済額は、金融機関から交付された毎月の返済額が記載された返済予定表に基づき計上します。